

業界から一言 製造業

食料品製造／洋菓子関連は、輸出用クッキーが増加傾向にあるが、国内需要が低調のため、前年比横ばい。石油価格の上昇に伴い、袋、包装紙等の資材の値上げ、原材料の砂糖の値上げ、ガス等の燃料の値上げのコスト増が経営を圧迫。

繊維・同製品／春物が一段落し、小売全般の動きが鈍いため、産地が苦戦。加えて商品企画力による受注の格差が益々増大。秋冬用マフラーの受注が特に厳しい状況。

紙・紙加工品／重油価格の急激な高騰が経営を圧迫。

窯業土石製品／生コンクリートの出荷量は、民間マンション建設が順調に推移し、前年比増。砂利採取は、特定砂利採取の認可が遅れているため、原石確保が困難となり、プラントのフル操業ができない状況であり、企業間格差も見られる。土木工事の発注状況から、六月以降は悲観的に見えない。

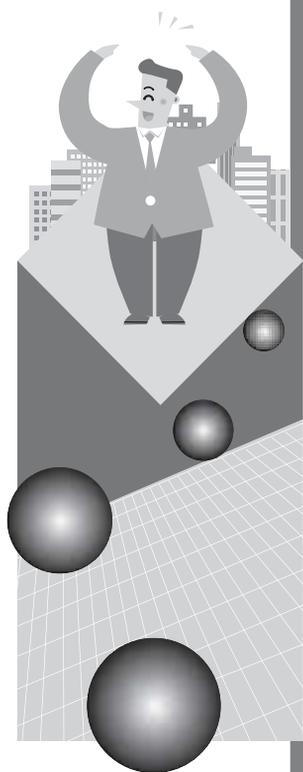
鉄鋼機械金属／三月の繁忙の影響のためか、四月はあまり良くないが、価格改定により、

ここ二、三年のコストアップ分が認められたのが好材料。一部組合員の売上高が前月比微減であり、全体的に弱含み。

非製造業

小売業／水産物は、市場への商品の延着や鮮魚の品薄による価格上昇により、小売店が仕入難に陥っている。食肉業界は、牛肉価格の高値安定と石油製品の値上げに伴う包装資材の高騰により、収益状況が悪化。家電業界は、液晶テレビが売上に貢献したが、価格競争により、収益が悪化。白物家電ではエアコンが好調に推移、二体型洗濯乾燥機、冷蔵庫等の高付加価値製品が市場を押し上げた。ガソリンスタンドは、四月当初の原油価格の値上げ(五円/ℓ)に伴う末端価格への転嫁が十分に行えず、さらに五月も原油調達コストの増加により、三円程度の値上げが必要であり、ますます経営を圧迫。

サービス業／ホテル・旅館は、愛知万博・名古屋空港の開港



景況情報

山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告
(平成17年 4月分)

調査対象の50業界のD I値は、製造業においては、「業界の景況」「売上高」はやや回復、「収益状況」はやや悪化、非製造業においては、三指標ともやや回復し、全体としても三指標ともやや回復した。4月に入り、これまでのコストアップ分が価格改定に盛り込まれるという好材料のあった企業が一方、多くの企業においては、原油価格の高騰などの影響が原材料や資材の調達コストを押し上げており、経営が一段と厳しくなっている。観光・宿泊関連産業においては、他県開催のイベント及び対日感情の悪化による外国人観光客の減少などの影響が見られ、低価格化への対応などますますの企業努力が必要。

の影響で利用客が減少。また、中国の「反日デモ」の影響、「竹島問題」の影響により外国人利用客が減少。加えて、客単価が減少し、収益が悪化。

建設業／型枠工事は、秋頃まではマンション、老人ホームなどの物件が続くが、工事単価が年々減少しており、採算割れをする物件もあり、経営を圧迫。鉄鋼工事は、鋼材価格の上昇が経営を圧迫。比較的規模の大きい企業は、秋口まで受注があるが、県外物件(首都圏)が大部分。

運輸業／タクシー業界は、前月同様異動の時期であり、微増。